応急手当講習テキスト

（小児用）

1 歳以上 16 歳未満

ガイドライン 2020ver.
〈 感染症対応 〉

救命の連鎖

名張市消防本部 名張消防署

救命処置の流れ（心肺蘇生とAEDの使用）

処置
観察
感染対策

（自分のマスクがあれば着用する）
①安全確認

（傷病者の顔にあまり近づかない）
②反応なし

③大声で応援を呼ぶ
119 番通報・ＡＥＤ依頼
通信指令員の指示に従う

（傷病者の顔にあまり近づかない）
④呼吸をみる

普段どおりの呼吸あり → 気道確保
応援・救急隊を待つ
回復体位を考慮する

呼吸なし・判断に迷う

⑤ 胸骨圧迫 （ハンカチやタオルなどを傷病者の口と鼻にかぶせる）
- 強く（片手または両手で、胸の厚さの約1／3の深さ）
- 速く（100～120回／分）
- 絶え間なく（中断を最小にする）
- 圧迫解除は胸がしっかり戻るまで

⑥ 人工呼吸 （手元に人工呼吸用の感染防護具があれば使用する）
- 講習を受け人工呼吸の技術を身につけ、人工呼吸を行う意思がある場合に実施する
- 人工呼吸ができないか、ためらわれる場合は胸骨圧迫のみを続ける

⑦ 心肺蘇生（胸骨圧迫30回＋人工呼吸2回）を繰り返す

（応急手当を行うものが複数いれば、一人は部屋の窓を開ける等、室内の換気をする）

⑧AED装着
- 電源を入れる。 小学生以上は小児～大人用電極パッドを装着する。
- 未就学児は未就学児用電極パッドを装着する （※未就学児モード切替、未就学児キー使用）

⑨心電図解析
電気ショックは必要か？

必要有 → ⑩電気ショック1回
⑪その後直ちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開
⑫繰り返し

必要無 → ⑪直ちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開
⑫繰り返し

救急隊に引き継ぐまで、または傷病者が目的のある仕草をしたり、普段どおりの呼吸が出現するまで心肺蘇生を続ける

- 救急隊に傷病者を引き継いだあとは、速やかに石鹸と流水で手と顔を十分に洗う
- 傷病者の鼻と口にかぶせたハンカチやタオルなどは直接触れないようにして廃棄する
- うがいをする

※感染対策

すべての心停止傷病者は、感染の疑いがあるものとして対応する。

自分のマスクがあれば着用する。

心肺蘇生法の手順

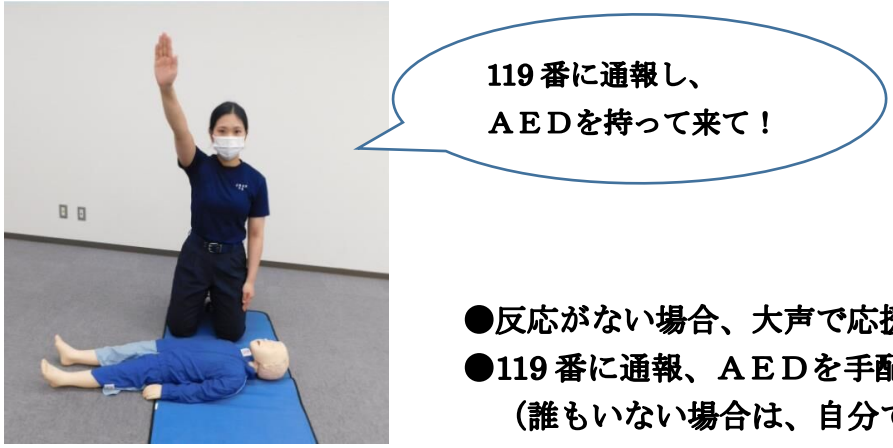
1. 反応の確認

●肩を軽く叩きながら呼びかけ、反応を確認する。

※感染対策

傷病者の顔にあまり近づかないように注意する

2. 通報とAED



●反応がない場合、大声で応援を呼ぶ。

●119 番に通報、ＡＥＤを手配する。

（誰もいない場合は、自分で行う）

3. 呼吸をみる

●胸とお腹の動きを見る。

●呼吸がないか、普段どおりでない場合や、判断に迷う場合は呼吸が止まっていると判断する。

※感染対策

傷病者の顔にあまり近づかないように注意する

4. 胸骨圧迫

※感染対策
　ハンカチやタオルなどを口と鼻にかぶせる

●両手または体格に応じて片手で圧迫
●深さは、胸の厚さの約１/３
●速さは、毎分 100～120 回のテンポ

5. 人工呼吸（胸骨圧迫 30 回後、人工呼吸を 2 回行う）

※感染対策
　手元に人工呼吸用の感染防護具があれば使用する
　講習を受け人工呼吸の技術を身につけ、人工呼吸を行う意思があれば実施する

（1） 気道確保

●頭側の手を額に置く。
●足側の手の指先をあご先にあてる。
●あご先を持ち上げながら、頭を後ろにそらす。

（2） 人工呼吸

●口を大きく開き、相手の口を覆う。
●相手の胸が上がる程度、１秒かけて２回吹き込む。

胸骨圧迫３０回と人工呼吸２回の組合せを絶え間なく続ける

※感染対策
　応急手当を行うものが複数いれば、一人は部屋の窓を開ける等、室内の換気をする

AEDが到着したら

1. 電源を入れる

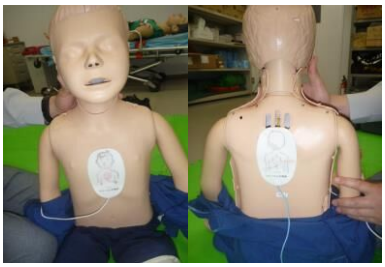
●ＡＥＤの電源を入れる。
●音声ガイダンスとランプに従い操作する。

2. AEDのパッドを貼る

●小学生以上は小学生～大人用の電極パッドを右前胸部と左側腹部に貼り付ける。
（肌にしっかり密着させる）

●ＡＥＤ本体に小学生～大人用と未就学児用の２種類の電極パッドが入っている場合や、小学生～大人用モードと未就学児用モードの切替えがある場合は、未就学児には未就学児用の電極パッドや未就学児用モードで使用する。（肌にしっかり密着させる）

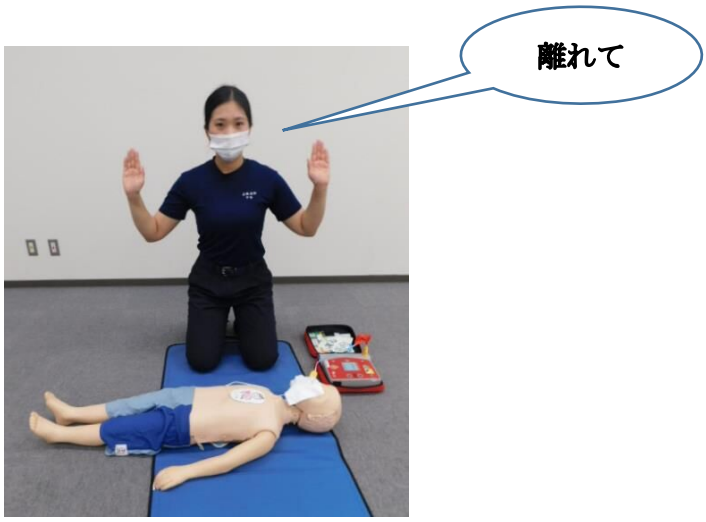
〇未就学児用パッド



〇未就学児キーの使用

〇未就学児モード切替

3. 傷病者から離れ、心電図解析



●ＡＥＤのパッドを貼り付けると、自動的に心電図の解析が始まります。この時、「離れて！」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認する。

4. 必要なら通電ボタンを押す（※）

●通電ボタンを押す際は、必ず自分が傷病者から離れ、さらに誰も傷病者に触れていないことを確認する。

※注意

オートショック AED の場合、電気ショックボタンがなく、自動で電気ショックが実施されるため、音声ガイダンスをよく聞き、指示に従う。

AEDを使用する場合でも、AEDによる心電図の解析や電気ショックなど、やむを得ない場合を除いて、心肺蘇生法の手順を、できるだけ絶え間なく続けることが大切です。

※感染対策

- 傷病者を救急隊に引き継いだ後は、速やかに石鹸と流水で手と顔を十分に洗う
- 傷病者の口と鼻にかぶせたハンカチやタオルなどは、直接触れずに廃棄する
- うがいをする

イラスト：救急蘇生法の指針 2020（市民用）より引用